

薬の知識

今日17日から「薬と健康の週間」が始まったのをご存じでしょうか。医薬の祖としてあがめられる薬祖神に関係のある「薬祖神祭の日」にちなみ、1978年度から、毎年10月17日から1週間を設定しています。

医薬品を正しく使用することの大切さ、そのために薬剤師が果たす役割の重要性を多くの方に知ってもらうため、積極的な啓発活動を行う週間です。市町村が開く健康まつりなどの会場で、薬剤師会と協力して薬に関する相談コーナーを設置し、薬の適正使用について普及啓発をしている地域もあります。もしお出掛けの際に相談コーナーをお見かけになったときは、お気軽にお立ち寄りいただければと思います。

飲み薬は決められた量よりも多く飲めばさらに効くというのではなく、逆に副作用や中毒

薬局 気軽に立ち寄って

3. 薬と健康の週間

などが現れる危険があります。薬を飲む時間についても同様です。定められた量・時間をきちんと守ることが大切です。

例えば、食事を目安とした服用時間に食前・食後・食間があります。食前とは食事の1時間、30分前(胃の中に食べ物が入っていないとき)、食後とは食後30分以内(胃の中に食べ物が入っているとき)、食間とは食事の2時間後が目安(食事と食事の間)です。食間は食事の服用ではないので、気をつけてください。

この機会に日頃聞けないことや疑問に思っていることを気軽に相談していただき、薬剤師を身近に感じていただければと思います。また、これを機会にお近くの薬局を処方箋が無くても、気軽に立ち寄れる場所にしていただければと思います。

けるものもあるので、薬の効果が正しく現れるためには服用時間を守る必要があります。また、食品との飲み合わせに注意が必要な薬もあります。

薬によっては食事の影響を受

・下田健一

(鹿児島県薬剤師会専務理事)



鹿児島市薬剤師会「第9回市民公開講座」の様子。薬剤師会はイベントなどを通じ、薬の正しい使い方の理解を深めている

2017(平成29)年10月17日掲載